

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。事業所内に理念を掲示しており、理念の意義を再確認している。理念の意味を理解し実践出来るように指導していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	地域密着運営推進会議にご家族に積極的に法人理念の説明と理解を求めていきたい。
( 部分は外部評価との共通評価項目です )			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近隣の方から野菜を頂いたり、正月用のしめ縄作りの指導に来ていただいたりしている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>地域の民生委員さんから最新の情報入手に努め、自発的にかかわれるよう努力している。</p> <p>台風等の災害が心配される時は、非難場所として利用していただくよう声をかけている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>ミーティングで話し合い評価項目を確認し、実践で取り組めるように努めている。今回も、全員での自己報告票作成を行った。</p> <p>自己評価及び、外部評価の意見を受け止め、サービスの質の向上に活かす取り組みを行っていく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>運営推進会議では家族、民生委員、地域の代表者、市の職員に参加していただき、2ヶ月に1回開催している。利用状況の説明、活動状況の報告、意見、要望、助言などを頂きながらサービスの質の向上に努めている。運営推進会議にて活発な意見交換ができるように、工夫していきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>小さいことでも疑問に思うことは担当者側へ出向き情報を共有していきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>ミーティングで研修を行ったり、母体の職員会議の研修に参加してみんなで学んでいる。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>「身体拘束と高齢者虐待にいて」について管理者よりミーティングで学習会が行われ職員の理解遵守に努めた。「身体拘束を行いません」など厳守すべき事項を職員の目に付きやすい所に掲示し啓発に努めている。市が主催する高齢者虐待防止研究会に管理者が参加し、高齢者虐待に関する知識を学んでいる。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は重要事項説明書により十分な説明を行い、本人と家族が納得した上で契約を結んでいる。解約の際も特に家族に対して十分な説明を行い納得を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者の不平不満はいつも耳を傾け聞いている。また、意見箱を設け誰でも自由に意見が言えるようにしている。意見が出た際は改善策を全事業所へ公表している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には写真(アルバム)を見せながら近況報告をしている。面会の少ない家族もいるので月1回は電話で報告している。行事や職員の異動については、広報誌(3ヶ月に1回発行)にて知らせている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに苦情ポストを設置したり、苦情受付ポスターを貼り啓発に努めている。また、家族が面会に来られた際に会話の中で傾聴している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場職員から、まず情報収集を行いそれに対して意見や考えを聞き判断している。	○	月1回程度のスタッフ会議や毎朝のミーティングにて意見や提案を出してもらっているが、日々、職員間の会話の中でも意見や提案ができることが多く、反映できるよう努めている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	普段より入居者の様々な状況に対応できるよう勤務体制をとっている。(日勤・遅出の時差出勤)スタッフとはミーティングで話し合い利用者によりサービスが提供できるよう勤務調整は配慮している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃からコミュニケーションを多くし、意見や質問を出しやすい雰囲気づくりに努めている。また、半年に1度職員と個別に面談を行っている。	○	異動した職員は同一敷地内事業所に従事しているため、多事業所利用者と共に異動した職員が事業所に訪問し顔なじみの利用者や職員間の相互交流を図っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用条件には性別、年齢の指定はしていない。福祉を志す方には幅広く間口を広げたくさんの個性を事業所の長所としている。また、職員が楽しく仕事ができるように、お互いを認めどんなことでも自由に言える雰囲気作りを心がけている。	○	求職者に対しては、施設内容、職場環境を理解してもらうために、見学や実習を希望に応じて行っている。また、ホームヘルパー講座等の実習生を現在積極的に受け入れ、職員採用に力を入れている。
20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	ご利用者の尊厳や人権について、ミーティングや法人の研修にて、周知徹底に努めている。	○	認知症サポーターの講習会を受講し、同法人職員に伝達研修を行った。今後も継続して行っていきたい。
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体事業所において毎月1回OTの勉強会が行われている。また研修参加を積極的に勧め研修報告を全職員に報告する機会を設けている。ミーティングでもミニ研修や研修報告の時間を設けている。	○	新人職員に対しては今後、1か月、3か月、6か月に必ず面接を行い仕事に対する不安等を聞く機会を持ち、新人育成を行っていきたい。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一つの事業所のみ交流している。取り組みとしてはできていない。	○	今後は、他事業所と交流ができるようにまずは職員の見学等を検討していく。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	普段より仕事の合間や終了後に職員の話聞く場面作りをしている。法人の互助会を通して、親睦会を開き職員が交流する機会を作っている。	○	業務に支障がなければ、公休や有給、勤務変更の要望には答えている。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	母体事業所にて人事評価制度を導入しており職員の努力や実績により評価されるシステムを導入している。年2回自己評価、上司評価を行い職員のやる気につながるよう努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望者に対して、まず家族と一緒に見学に来てもらい事前に面談を充分に行っている。	○	入居前は体験入居を実施し、入居希望者、家族の意見を反映していきたい。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	グループホーム入居に至るまでの家族の悩みや不安などを事前面談で充分に聞き取り話し合いを行っている。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	抱えている悩みや思いを十分に傾聴して本人や家族にとって、どんなサービスが必要なのか見極め、提案し対応している。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者に見学してもらい、十分な説明を行い本人・家族が希望すれば体験入居をしてもらっている。なじみの家具を持ってきてもらい居室の雰囲気作りや職員の関わりを多く持つようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	○ 利用者との会話を多く持ち、ご利用の方が長年培ってきた経験や思いを大切に、日々の援助に活かせるよう心がけている。
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	バスハイクや音楽会などの行事に参加を呼びかけ家族に参加していただいている。また、現場を通して援助について説明し一緒に喜んでもらう。	
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	○ 行事への参加を家族にも呼びかけし、ご本人、ご家族と一緒に過ごせる場を設ける等している。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院やお寺など本人が今まで利用してきた場所についてはできれば継続して利用してもらうよう家族に説明している。	
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事作りや洗濯物などの家事援助を通してできることをすることによって役割を持っている。職員はその役割を上手に利用者へ提供している。	○
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業者へ入所され、その後入院となり病院等に移られた方についても面会や手紙を出したりして継続したお付き合いをしている。	同一法人内入所、利用者との顔なじみ方と面会したり、地域行事へ参加する等して、関係が途切れないよう支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族・本人の思いをできるだけ詳しく聞き取るよう努力している。また、利用者ご家族との何気ない会話の中でも、ご本人の思いや意向が発見されれば、介護記録に記載したり、スタッフ同士の会話の中で情報を共有し、把握に努めている。	○	入居者の思いや希望等、趣味趣向をいろいろな角度より聞き取り、記録として残し、介護計画の反映に努めている。日頃の会話や相談等を工夫し家族や本人の思いをもっと素直にひきだせるようにし、介護計画に繋げていきたい。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握に努め、それに合わせた余暇活動の提供等を行っている。本人の過去に共感し自尊心を大切にしている。	○	ご利用者やご家族との日々の会話の中で知りえた情報は、個別記録に記入したり、ミーティングで共有している。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各利用者の日々の暮らしを介護記録に記入し、カンファレンスを通じて総合的に職員が把握できるように努めている。また、ケアカンファレンスにも活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者がより快適な生活がおくれるよう、ケアプランの中でも特に本人・家族の要望を多く聞きだし、取り入れるよう努めている。	○	今後、24時間シートの活用について職員間で検討していく。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しと入居者の状況が変化したときは、その都度見直して現状にあった介護計画に変更している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>入居者の毎日の様子は個々の介護記録や健康、排泄チェック表に記入している。また入居者の状態変化や職員の気付きについては日誌や職員間の連絡ノートに記入し情報を共有し再度ミーティングで話し合っている。</p>	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>健康状態が悪化した利用者は同法人看護職に即座に報告し協力医療機関と連携をとっている。</p>	<p>○</p> <p>現在、ターミナル状態の入居者が居られるが医療機関と同法人看護職との連携により麻薬での疼痛管理を行っている。可能な限り当ホームで介護を継続していきたい。</p>
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
42	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>警察・消防については交通安全キャンペーンや防災訓練で関わりを持っている。地元の小学生との交流や地元の文化祭に出展している。</p>	<p>○</p> <p>運営推進会議に民生委員や地域の代表者にも参加していただき、意見交換をしている。定期的に歌や朗読のボランティアに来ていただいたり、地域行事に参加し地域との交流を図り、社会とのつながりが多く持てるよう心がけていく。</p>
43	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>本人や家族の意向があれば必要に応じて他サービスの紹介をするなど相談にのっている</p>	
44	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>必要に応じて地域包括支援センターに連絡をとったり、出向いて相談にのってもらっている。</p>	
45	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医とは常に連絡を取り合っており、24時間体制で在宅療養が受けられるよう医師、看護師との協力体制を確認している。</p>	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎週一回精神科医の回診があり、入居者の様子を報告し、指示、助言をもらっている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の事業所と兼務の看護師がおり、日常的に連絡相談している。夜間も医師に上申する前に連絡相談している。		
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	環境の変化によるダメージを最小限にするため、早期退院に向けソーシャルワーカーと連絡を取り合い情報を共有している。入院時はこまめに面会に行っている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の意向を大切に、かかりつけ医の定期往診時に状態を報告して指示を受けている。状態の変化についてはその都度家族に連絡している。	○	できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。終末期には、かかりつけ医からの今後の方針について説明を受け、事業所での状態については家族と連絡帳や電話で情報を共有しながら、本人や家族の思いを実現できるように支援していきたい。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人にとってやすらかな終末期を迎えられるよう家族の意向も尊重し、今後の対応について、家族、かかりつけ医などと充分話し合いを行って全職員で援助している。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居の場合できる限り事前面接等を行い、情報収集するようにしている。また、退去の場合、情報提供書を持って必要な情報を提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライドを尊重し、声掛けや対応には、意識して行うよう注意している。個人情報の保護については母体事業所の研修に参加している。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入居者のペースに合わせ、ゆったりした雰囲気ですべてを声かけている。時には方言を使って本人の思いや希望の表出に努めている。	○ 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、理解力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。ゆっくりとした口調での声かけ、目線を合わせて寄り添い、じっくりと利用者の思いや希望を理解するように心がけている。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内での大まかな日常生活の流れはあるが、決してそれを無理強いすることではなく、食事、起床、就寝などは各人のペースを大切にしている。「何をしたいか」「どうしたいか」については常に希望を聞いている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行事や外出の時は前日から入居者と一緒に服選びを行い、おしゃれに興味をもってもらっている。散髪は月2回の訪問理容サービスを本人、家族の希望に応じ利用されている。近隣美容室の送迎によりパーマやカット等入居者の意向に沿った支援を受けている。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・夕食は母体事業所厨房に委託しているため配膳や後片付けを共に行っている。昼食作りは入居者個々のできることを手伝ってもらい職員も一緒に和やかな雰囲気ですべてをしている。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者一人ひとりの嗜好を把握し、その時々に合わせて好みのものを出している。おやつに飴を出すときも、好みの飴を選んでもらっている。入居者に誕生会のケーキの選択や移動パン屋でのパンの選択など嗜好に合わせた支援を行っている。	○ 利用者及び家族へ食事満足度を口頭ではあるが確認している。本人の嗜好や食習慣を可能な限り取り入れ食事を提供している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、おおよその排泄パターンを把握している。入居者の状態にあわせ、夜間オムツの人も日中は布パンツにパッドを使用し声掛け誘導を行いトイレでの排泄を心がけている。	
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の体調を考え一日おきとしているが、一人ひとりがゆっくり入浴できるよう希望や順番を聞いて入ってもらっている。	○ 夜間入浴について現在検討中である。菖蒲・柚子・屠蘇湯等季節に応じた入浴を提供している。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息の時間や就寝の時間に決まりや制限は設けていない。その時の状況によって居室で午睡を取ったり食堂のソファ、和室で横になったりして頂き、気持ちの良い休息、安眠の支援を行っている。	
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各入居者の元職や、得意なこと、趣味に応じて施設内外での家事や作業をお願いしている。張り合いや喜びを感じて頂けるよう、作業をしていただいた時はスタッフは必ず感謝の言葉を伝えている。	○ 生活歴や個々の能力に応じ、家事の手伝いや趣味活動、レクリエーションや外出等行っている。季節に応じた行事や誕生会、演芸ボランティアの訪問等もあり楽しみや気晴らしの支援を行っている。生活歴や経験等、より情報の把握に努め、役割や楽しみごとの幅をひろげていきたい。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる入居者は自分で持っておられるが、ほとんど家族より預っている。外出行事の時など入居者の力量に応じて、さりげなく援助している。	
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が付き添いのもと、散歩や地域行事の参加を行うようにしている。買物にも車にて同行してもらっている。	○ 天候の良い時は、リハビリも兼ねてできるだけ散歩するようにしている。また、地域行事に出向いたり、事業所の行事にて、花見や外食等を開催し、外出の機会を多く設けている。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に2回春と秋に高速道路を使ったバスハイクを行っている。また、季節を感じてもらうドライブ等の外出行事もその都度実施している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者や家族の希望に応じて電話連絡や手紙のやり取りができるように声掛けし援助している。不穏や不安になられる方には、家族より連絡をしていただいたり、手紙を書いていたいたりしている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は積極的に歓迎している。特に時間の制限は設けず、いつでも訪問できる雰囲気としている。居室にて気兼ねなく面会できるよう配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの中で人権問題や認知症の方へ身体拘束がいかに逆効果であるかを勉強している。	○	研修会や勉強会へ参加し、身体拘束をしないという意識のもとにケアを行っているが、拘束という意味を全ての職員が理解しているとはいえない。 身体拘束についての理解を深める勉強会を行い、その人らしさを広げるケアへ繋げていけるようにしたい。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は通常の家と同様感覚(防犯)で施錠している。入居者から申出があれば、開錠している。それ以外の勝手口や居室のサッシは施錠していない。	○	従来自動ドアを施錠していたが現在、日中解錠している。離苑が予測されるが、鍵をかけないケアの実践意識が高まり現在に至っている。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	デイルームなどに一律に過ごすのではなく利用者が過ごしやすいような場所で過ごしてもらっている。所在確認は職員が連携して行っている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	何でも取り上げるのではなく、危険なものや不必要なものは、家族と相談して預ったりしている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ミーティングや申し送りにて話し合いをしている。事故防止については、ヒヤリハットや事故報告書に記入して次の事故につながらないように検討している。	○	以前の事故発生性については職員事故意識の低さを原因に考えることが多かったが、事故が発生の原因が環境的因子・人的因子・利用者の心身的因子なのか事故の原因を客観的に分析できるようになってきている。今後も、多角的に事故原因を分析していけるように勉強会などを開催したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変、事故発生時のマニュアルを事務所に掲示している。また対応のため書籍もすぐに手に取れる場所に置いている。心肺蘇生の講習への参加を行っている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は消防署とも連携し年3回以上行っている。災害時のマニュアルがあり、事務所に掲示していつでも見れるようになっている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会や電話連絡時には、近況報告をしている。体調不良やADLの低下等見られてきた場合は早期に家族連絡し今後について説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い普段の値から外れている場合などは日中も引き続き再測定、様子観察を行っている。他にも、食事、排泄、排尿、顔色など、入居者全員の様子を留意し、異変の早期に努めている。申し送りや記録を通して情報の共有をし、異変時は看護師や医師に速やかに連絡報告をしている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の内容、用量、効能は一覧表にまとめており、スタッフがいつでも見られるようにしている。誤薬の防止のため、与薬の際は職員2名で確認し、呼称を行っている。入居者の症状の変化に目を配り、看護師や医師に報告、薬の調整を依頼している		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ラジオ体操やリハビリ体操を実施。毎日身体を動かすよう心がけている。食事でも食物繊維を取り入れ献立を立てている。水分量にも配慮している。	○	尿、便意を訴えられない方に対して排尿・排便コントロールができるように今後、ケアプランを検討していく。
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食時後、口腔ケアを行う。週2回義歯洗浄剤使用。義歯や洗浄、管理については利用者に応じて職員が行っている。	○	今後、同一法人内で口腔機能維持ケアの研修を受講し、伝達講習を計画している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックを行い、水分補給も細めに行っている。一人ひとりの状態を観察し食べやすい器などで提供している。利用者によってはきざみやミキサー食にしている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてのマニュアルがあり、それに沿って対応している。一作業一手洗い。うがいの励行を徹底して行い、椅子や床、手すりの消毒は每晚実施している。トイレ掃除も次亜塩素酸を用いて行っている。新型インフルエンザの流行で予防接種を職員、入居者とも全員毎年受けている。	○	今年度は新型インフルエンザの流行で職員の感染予防(出勤時の手洗い・うがい・マスク着用)を厳重に行った。今後も、職員が感染症を持ち込まないよう継続して感染対策を行っていく。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日包丁やまな板等は漂白除菌している。調理を始める際は手洗い、アルコールによる手指消毒を確実にしている。食材は新鮮なものを購入して早めに使い切るよう無駄にならないような献立をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花や観葉植物を置き、季節に応じた飾りつけをして安心して出入りできるよう工夫している。また、ホームを囲う庭のフェンス扉には施錠せず近隣の方が自由に訪問できるようにしている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には毎月利用者と作成し、季節感を考慮した折り紙や絵などの掲示物を飾っている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入口の腰掛椅子や小さなテーブルを使用したりして個別に座り編み物や日向ぼっこなどができるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具を持ってきたり記念写真や遺影を飾ったりなど一人ひとりに合った居室になるよう配慮している。		
86 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節は各居室の位置、デイルームによって温度差があるのでこまめに行っている。冬場は加湿器を使用し室内の乾燥にも配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差のない造りになっており、トイレ、浴室、廊下、食堂、居室には手すりが設けられている。		
88 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口には表札を掲げており、分かりづらい方には大きな文字の名前を掲示したりぬいぐるみなどを下げたりして混乱しないよう工夫している。また手作りののれんも利用者によって作っていただいて各居室の入口に下げている。		
89 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにはプランターを置いており花やねぎを植えている。ねぎは食材に利用している。プランターや植木鉢に種まき、水やりを行いお世話することを生きがいにされている方もいる。1Fの小さな畑では季節野菜を作って収穫を楽しみ、食材として使用している。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

当ホームは田園の中にあり、のどかな環境である。この環境の中で入居者の方がもっと外出する機会を多くもち地域交流を図っていきたい。また、職員が生き生きとした介護実践ができるように、コミュニケーションを密にし地域の方がいつも介護の相談や、お茶を飲みに来れるような「お年寄り110番」の看板が立てれるような、開かれたホーム作りを職員とともに模索している状況です。